

2020 年度入試に向けて

～各教科からのアドバイス～

▼ 国 語

今年の大きな変更点として、国語の試験時間と配点が変わったことがあげられます。A日程午前とB日程で、50分100点が60分150点に増加し、A日程午後でも、50分が60分になりました。これは、入試における国語の重要度が上がってきているということです。

出題の特徴として、3,000字～4,000字の長文が2題出題されます。普段からこれくらいの量の文章を読み込む必要があります。出題内容は、心情把握と内容把握が中心です。対策としては、文庫、新書、問題テキストなどを使って、速読、精読する練習をして下さい。本文中の言葉を使って、心情や内容を読み取る練習をしましょう。また、漢字や語彙の問題や新傾向問題も出題されますので、過去問題をよく見ておいて下さい。そして、答案用紙に文字を丁寧に正しく筆記する習慣を付けておいて下さい。

▼ 算 数

問題構成は、第1問が基本計算、第2問が小問集合、第3問以降が文章題と図形問題です。多様な力を問う幅広い問題が出題されます。計算問題は、速く正確に解く事が求められます。問題文を読み取る→図を描く→条件を整理する、というように考えを進めていくので、論理的な思考力が最も重要になります。また、記述問題も出題されます。記述するとは、自分の考えを答案の中で表現するという事です。そのために図や表も用います。

今年から、試験時間と配点が変わることになりました。A日程午前とB日程で、50分100点が60分150点になり、A日程午後でも、50分が60分になりました。それに伴い問題数が増えます。また、身近な題材を用いて、長い文章を読んで考える「新傾向問題」もあります。過去問題集は、必ず何度も解いておいて下さい。

▼ 理 科

理科は、化学・物理・生物・地学の4つの分野に分けることができます。本校の入試では各分野ほぼ25点ずつ出題しています。そのため、「苦手分野」を作ってしまうと高得点を取るのが難しくなりますので、全ての分野で好き嫌いなく学習して下さい。各分野最初の問題は、重要語句の確認問題や基本的な計算問題などが多く出題されます。得意でない分野でもしっかり問題を読んで取り組めば、正解できるはずです。教科書などで、漢字で習った用語は必ず漢字で書く必要がありますので注意してください。

本年度から、A日程・B日程とも試験時間が50分から40分になりました。そのため、計算問題や文章・グラフ等の読解問題などを早く、正確に解く必要があります。計算問題は反復練習、読解問題は落ち着いた正確な読み取りを心がけてください。A日程午前よりB日程の方がやや難しくなります。過去問題集を解いて、解答順序や時間配分などよく考えてから本番に臨んでください。

▼ 社会

都道府県名や時代の名前など、教科書で漢字で書かれている用語は、難しいものであっても、漢字で書けるようにしましょう。社会科入試は、本校としては初年度ですので、教科書や問題集で重要とされている部分を中心に出题しています。全範囲からまんべんなく出题していますので、特定の分野にかたよった勉強はおすすめしません。

読解力の必要な問題は、しっかりと問題文を最後まで読む練習をしましょう。グラフや表を使った問題も出题されます。また、最近のテレビや新聞のニュースにどのような話題が出てきているか、常に時事問題には興味を持って見て下さい。

▼ 英語

本校の入試として、実施初年度となります。実用英語技能検定（英検）3級レベル、現在の一般的なカリキュラムだと中学卒業程度の難易度となります。筆記試験は、試験時間30分で、300語程度の長文を1題と、文法問題やテーマ英作文を出题する予定です。文法力、単語力もちろん必要ですが、英語で書かれた文章を一定時間内に読み通し、素早く内容把握する力（読解力）が最も重要です。

また、筆記試験後に5分程度の英語面接試験を行います。こちらも英検3級程度の難易度です。課題文に関する質問に対して、適切に応えられるかが重要なポイントです。面接時間は約5分で、面接官2名、受験生1名の個人面接です。簡単な挨拶をはじめ、文章音読、文章の内容についての質問などをおこないます。今後は、4技能（読む・聞く・書く・話す）全てバランス良く学習するように心がけてください。